

～志を高く 三刀屋中！～

三刀屋中学校だより

令和2年6月

TEL 45-2421

令和2年度「自転車マナーアップモデル及び鍵かけ推進モデル校」に指定！



5月26日（火）に、本校において「自転車マナーアップモデル及び鍵かけ推進モデル校」の指定式が行なわれました。本来ならば、全校集会の形式で行なわれる予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、生徒代表として生徒会正副会長、地域のボランティアを代表して、交通指導員の山根和夫さん、地域交通安全活動推進員の渡辺伸一郎さんが参加する形で、式を行いました。

式では、雲南警察署の青木署長さんがマナーアップモ

【青木署長から指定書を受け取る武繁会長】

デル校として、

- ① 安全な行動を実践してほしい。
 - ② 道路交通の意識を早い段階からもってほしい。
 - ③ みなさんの活躍、頑張りを地域に発信してほしい。
- とお話くださいました。これを受け武繁生徒会長は、決意表明の中で、「私たち三刀屋中学校の生徒が、率先して自転車のマナーやルールを守ります。」と力強く宣言しました。

雲南警察署からは、指定書の他に「マナーアップモデル校ののぼり旗」、全校生徒に「自転車のワイヤーロック」、「反射スポークスティック」が贈られました。

昨年の交通死亡事故は警察庁の調べによると3, 215人。（2020年1月6日）雲南署管内では、昨年自転車と自動車が発生した人身事故が1件、自損などを含む自動車の物損事故が15件、自転車の窃盗被害が1件発生しています。

今年度、91名が自転車通学をしています。交通事故、自転車盗難ゼロを目指し、また、雲南市内の中学生の模範となれるよう生徒会と共に精一杯取り組んでいきたいと思っています。



【指定式を終えての記念写真】



【マナーアップモデル校 のぼり旗】

本校のホームページ随時更新中！ぜひご覧ください！<http://shimane-school.net/unnan/mitoya-chu/>

部活動再開～戻ってきた活気～



4月18日(土)から5月17日(日)までの1ヶ月に及ぶ臨時休業が終わり、5月18日(月)から学校が再開されました。1年生もようやく部活動も決まり、各部とも活気が戻りつつあります。

今回の新入生加入でうれしかったことは、昨年まで1名しか部員がいなかったソフトボール部に1年生が8名入部してくれたおかげで、ソフトボール部以外の生徒の協力を得て何とか「三刀屋中学校」単独チームを組むことができたようになったことです。すぐには試合出場・・・とはなりませんが、新人戦に向けて基礎基本を身につけるために練習に励んでほしいと思います。

【部活動加入状況】

学 年	バスケット	野 球	剣 道	バレーボール	ソフトボール	吹奏楽	美 術
3 年	7	4	5	7	0	14	8
2 年	3	3	4	4	0	14	8
1 年	8	8	8	3	8	4	7
総 計	20	15	17	14	8	32	23

除菌消臭剤の寄贈 ～ありがとうございます～



【佐々木代表より寄贈】

6月5日（金）出雲市にある糸賀ふとん店（代表 佐々木章さん）より除菌消臭剤（A 2 care）を寄贈していただきました。佐々木さんは、本校だけではなく、雲南市や出雲市の小中学校、高等学校にも除菌消臭剤を寄贈されているそうです。

この除菌消臭剤は、航空機や羽根田国際線ターミナルのトイレのほか、多くのホテルでも利用されているようです。今後は、学校で有効に使わせていただきたいと思います。



笹巻き体験（協和1組）



6月5日（金）に、三刀屋交流センターでの笹巻き体験に協和1組の生徒が参加させていただきました。笹巻きは、島根県東部地域では「ちまき」、隠岐地方では「まき」と地域によって呼び名が異なります。出雲地方の郷土料理で、地域に根付いている文化の1つです。笹巻き作りには、粉を練る、丸める、笹の葉を巻き付ける、藁で結ぶなど様々な工程がありますが、生徒は地域の方々の優しい指導によりおいしい笹巻きを作ることができました。私の家でも、昔は役割分担をし、一家総出による端午の節句の恒例行事でした。大切な伝統文化です。ステイホームが叫ばれている今、家族で一緒に作ってみられたらどうでしょうか。

みとやっこ元気ウィーク



6月25日(木)から7月1日(水)まで第1回「みとやっこ元気ウィーク」が始まります。これは、小学校と中学校が連携して児童生徒の基本的な生活習慣(睡眠、朝食、歯磨き、メディア)の実態調査を行ないます。特に睡眠は、第2次成長期である中学生にとってはとても大切なものです。身体を大きくする成長ホルモンは、寝入ってから2～3時間後に分泌されます。また、成長ホルモンは、身体を大きくするだけでなく、細胞の回復、疲労回復にも有効です。2015年米国国立睡眠財団の調査によると、14～17歳の子どもの理想的な睡眠時間は8～10時間、最短睡眠時間は7時間という調査結果が出ています。文部科学省の調査では、睡眠時間が少なくなればなるほど「イライラする」、「自己肯定感が低くなる」という傾向がある。朝型(早寝早起き)の人の方が、夜型(遅寝遅起)の人に比べ「勉強やスポーツの成績が良い」という結果も出ています。昨年度1学期の調査では、朝食を食べていない児童生徒が全体の12%、2時間以上メディアを使用していた生徒が中学生で約30%いました。この「みとやっこ元気ウィーク」をきっかけに生活習慣を見直す機会にしてほしいと思います。

「夢」発見ウィーク協力のお礼

雲南市では、毎年中学校3年生が「夢」発見ウィーク(職場体験学習)を実施しています。「夢」発見ウィークでの体験を通して、「働く」ことの意義について学んだり、地域の人の願いや思い、苦勞を知ることにより、これまでの自分の生活を振り今後の生き方や自分の進路について考えてもらったりする大切な機会となっています。しかし、今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から市内の中学校一斉での開催は厳しいとの判断により、市全体では「実施しない」ということになりました。そのことを3年部に伝え、生徒が進路を考えたり、学ぶことの意義を考えたりする上で大切な機会だから本校単独でも「夢」発見ウィークを実施したいという要望が強く出ました。そこで、北川教育支援コーディネーターさんに動いていただいたところ、三刀屋地区の33もの事業所の方々が快く受け入れを承諾してくださいました。地域の方の温かいご支援のおかげで生徒の貴重な体験ができます。本当にありがとうございました。

～学ぶということ～

新型コロナウイルス感染拡大防止で、オンラインでの学習が注目されていますが、私は「学び」は教師と生徒、生徒同士、地域の方と生徒など人と人の関わり(対話)を通して行なわれるものだと思います。オンライン学習で知識の習得はできますが、思考を揺さぶるような深い学びは関わりの中でしかできない気がします。関わり(対話)を通して、自分の考え方や他者の意見を聞き、新たな発見や考えを導くことが本当の「学び」だと思います。その意味でも、「夢」発見ウィークは、学校では教わることができない大切な学びの場だと思います。教育哲学者の林竹二は、「学ぶということは変わる事」といっています。新しい知識や人と出会うことによって、(自分とは違う考えや思考が入り込み)自分自身の固い殻が破られ、それまでとは違う何かが自分の中に生まれたという実感こそ「学ぶということ」の本質だと言っています。新型コロナウイルスの感染状況によって、今後どのようなことになるか分かりませんが、生徒のために貴重な学びの場を提供していただき心から喜んでおります。地域の方々の本校に対する熱い思いに感謝いたします。